

●この資料の取扱いについては、次のとおりお願ひ します。	
ラジオ・テレビ・インターネット	令和 4年12月 8日(木) 15時から
新聞	令和 4年12月 9日(金) 朝刊から

お問い合わせ先	
羽曳野市教育委員会事務局 世界遺産・文化財総合管理室 文化財課	
電話	072-958-1111 (代) (内線 4480・4483・4484)
直通	072-947-3904
メール	bunkazai@city.habikino.lg.jp

表 題	史跡古市古墳群峯ヶ塚古墳の確認調査成果及び発掘調査現場の公開について
内 容	<p>昨年、峯ヶ塚古墳の周濠で検出した不明木製品を確認するため発掘調査を行いました。調査の結果、石見(いわみ)型木製品であることが判明しました。この木製品は大阪府内では初めての出土で、さらに日本最大の「木製のはにわ」であることがわかりました。</p> <p>【峯ヶ塚古墳の概要】 峯ヶ塚古墳は、一般の立入りが制限されている陵墓の多い古市古墳群にあって、墳丘を間近に見ることができる数少ない前方後円墳の一つです。古墳の構造や当時の社会状況を理解する上で欠かせないことから、昭和49年4月に国の史跡に指定され、これまでに古墳整備に伴う継続した発掘調査で多くの成果を得ることができました。また、令和元年7月に世界文化遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」の構成資産のひとつでもあります。 この古墳はこれまでの調査成果から5世紀末に築造されたと考えられており、墳丘長96m、後円部直径56m、前方部幅74.4m、後円部高9m、前方部高10.8mを測る前方後円墳で、二段に築かれ、北側のくびれ部から前方部側面にかけて造出しを設けます。また、墳丘の周囲には南側以外は二重の濠が存在します。</p> <p>【調査に至る経緯】 令和元年から令和3年にかけての調査によって「造出し」と呼ばれる儀式を行った場所の全容が判明しました。また、昨年の調査で古墳の周濠内より墳丘から転落した葺石、完存する長さ約86cmの円筒埴輪のほか「不明木製品」を確認しました。しかし、この木製品は大きく、その全容が分からないままでした。</p> <p>【今回の調査】 今回は、昨年に確認できなかった不明木製品全体を確認するために、昨年の調査範囲と重ねて、さらに西側に拡張した部分とし、その範囲は南北約10m、東西最大幅約12mのL字状に設定しました。調査期間は令和4年11月14日から12月28日までを予定しています。 調査の結果、この木製品は、「木製のはにわ」であることが判明しました。残存長約352cm、残存幅約75cm、最大幅約8cmの「石見型木製品」と呼ばれる種類のものとなります。 石見型木製品は、これまで16基の古墳でしか確認されておらず、今回の発見で17例目となります。大阪府内では初めての出土例となり、大きさはこれまで確認されてきた中で最大となります。今回の発見は古市古墳群での葬送儀礼における埴輪祭祀を考える上で貴重な成果と言えます。</p> <p>【現場見学会】 発掘調査現場の見学会を以下のとおり行います。 ・場所：峯ヶ塚古墳の墳丘北側 ・日程：令和4年12月10日(土) ・時間：午前10時～午後3時 ※雨天は中止です。(小雨決行) ※駐車場は用意しておりませんので、公共の交通機関でお越しください。 ※やむを得ずお車で来られる場合は有料駐車場をご利用ください。また近隣のご迷惑になりますので、路上駐車、その他商業施設での駐車は絶対にしないで下さい。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用にご協力をお願いします。</p>